

研究課題 (テーマ)	教育用電子カルテ教材「Medi EYE」とバーチャルタウンを統合した ICT 活用型シミュレーション教育システムの評価		
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	看護学部看護学科	講師	杉山由香里
研究結果の概要			
<p>看護学生が患者を「病気をもつ人」としてだけでなく、地域で暮らす一人の生活者として理解できるように支援するため、イラストで街や家族の様子を再現した学習ツール「バーチャルタウン (VT)」を開発 (令和 5 年開発) し、その教育的有効性を多角的に検証した。令和 6 年度に VT を講義等で使用した学生を対象に収集したデータを分析した結果を関連学会にて発表した。</p>			
結果			
<p>学生は VT を活用することで、患者の生活や家族、居住環境に関心を持ち、生活の様子をより具体的に想像できるようになることが明らかとなった。また、自ら操作しながら探索する行動も見られ、主体的な学習を促す効果が示唆された。さらに、学習意欲に影響する要因を分析したところ、「使いやすさ」や「アクセスのしやすさ」が特に重要であることが明らかとなった。直感的に操作できることや、親しみやすいデザインが学習意欲の向上に寄与していた。一方で、ログイン方法の複雑さなどが、継続的な利用の障壁となる可能性も示された。</p>			
考察			
<p>本研究は、ICT (情報通信技術) を導入するだけでなく、学生の利用実態や意識を分析し、それに基づいて教育方法を改善していく視点を提示した。現代の学生は、家族や地域での生活を身近に経験する機会が減少しており、患者を生活者として捉える力の育成が課題となっている。VT は、こうした理解を視覚的に支える有効な手段であると考えられる。また、学生が楽しみながら主体的に学ぶ「アクティブラーニング」を促進する教材設計の重要性や、データ分析を活用した教育評価の有用性も示された。さらに、教育用電子カルテの情報と地域生活を結びつけることで、看護の対象となる人の人生を統合的に捉える学習の可能性が示唆された。</p>			
<p>詳細は以下の学術集会にて発表した。</p> <p>学術集会名：日本看護研究学会第 51 回学術集会</p> <p>タイトル：コミュニティ・家族情報を視覚的に補足する支援ツール (バーチャルタウン) における使用感と看護学生の学習意欲の関連</p>			
<p>学術集会名：第 7 回日本看護ラーニングシミュレーション学会学術集会</p> <p>タイトル：看護学生による地域コミュニティ・家族情報の視覚的支援ツールの評価—グループインタビューの計量テキスト分析—</p>			
今後の展開			
<p>今後は、バーチャルタウン (VT) によって学生の主体的な学びがどのように促されるのか、学習の全過程で継続的に活用できるか、さらに電子カルテなど他の教材と組み合わせることで学びがどのように深まるのかを明らかにしていく。これらを通して、VT を活用した新しい看護教育のあり方を提案していく。</p>			